

稲木北遺跡と古代の多度郡

令和元年 11 月 9 日 (土) 10 時～12 時

香川県埋蔵文化財センター 長井博志

1. はじめに

今日のテーマ

奈良時代の役所跡と考えられる稲木北遺跡。

多度郡のこの場所に「なぜ役所が作られたのか？」を視点にしながら、地域における遺跡の役割を読み解く。

《地域を見る3つの視点》

- ① 地形や交通路との関わり
- ② 豪族の本拠地との関わり
- ③ 周辺集落の性格との関わり

2. 稲木北遺跡の特徴

- ① 建物群・柵列群が左右対称に並ぶ。対称関係にあるものは種類や規模も対応。
- ② 柵列群による区画範囲は、東西約 58m (一般的な郡衙政庁と同程度)
- ③ 柵列群による区画範囲 (中心域) の大型建物群は「H」字形に規格的に配置。
- ④ 中心域の外側には総柱建物 (倉庫群) が並ぶ。
- ⑤ 左右対称に並ぶ建物群・柵列群の基準線は、推定条里坪界線。
- ⑥ 中心域は東西方向に連続する条里型地割 2 坪×1 坪の中央に位置する。
- ⑦ 見つかった遺物はごく少量 (かつ一般的な集落でも見つかるものばかり)
- ⑧ 出土した土器の時期幅はごく限られている

時期：8 世紀初頭～前葉

遺構：郡衙クラスの官衙としての要件を満たす (左右対称配置・規模・区画範囲など)

遺物：官衙的な遺物 (墨書土器・木簡・硯・帯金具・木製祭祀具・施釉陶器など) は見られない。

3. 稲木北遺跡の性格—官衙的な遺跡との対比—

- ① 讃岐国府跡 (坂出市) 建物と区画施設の規模・種類・継続性、区画範囲、官衙的遺物の出土量と内容に大きな格差
- ② 生野本町遺跡 (善通寺市) 「多度郡衙?」。稲木北遺跡と存続期間が重複 (7 世紀後葉～8 世紀前葉)。区画施設内に大型建物群が規格的に配置。区画範囲は稲木北遺跡と同程度の規模。
- ③ 下川津遺跡 (坂出市) 豪族居宅との評価。建物配置は規格的。大型柵列群も伴う。ただし、左右対称配置はとらない。
- ④ 弥勒寺東遺跡 (岐阜県関市) 「武義郡衙」との評価。建物群は「H」字形の左右対称配置。区画範囲は約 50m。稲木北遺跡との類似度が高い。また、墨書土器や木製祭祀具、石帯も出土。

4. 多度郡内における稲木北遺跡の意義

ポイント

- ① 地形 西・南側に丘陵、東側に金倉川、北側に瀬戸内海
- ② 交通路 南部に推定南海道、中央部に伊予街道
- ③ 豪族の本拠地 南部に佐伯氏、中央部に因岐首氏、北部に大伴部首氏
- ④ 周辺集落の分布

中央部に稲木北遺跡と、南部に生野本町遺跡と同時期の集落が分布

※稲木北遺跡の周辺に位置する同時期の集落は、以下のとおり。

稲木遺跡 郷衙？（官衙的な様相あり）

金蔵寺下所遺跡 祓所（多度郡内における律令祭祀の場）

西碑殿遺跡、矢ノ塚遺跡 鳥坂峠の麓の集落（物資の流通管理）

↓

各遺跡で固有の役割（稲木北遺跡の官衙機能を補完する存在）

＝稲木北遺跡は多度郡内の地域支配の要

5. 稲木北遺跡と多度郡衙—生野本町遺跡との関係から—

ポイント

- ① 遺跡の所在地と豪族の本拠地
- ② 遺跡の所在地と交通路
- ③ 条里施工計画との関係
- ④ 官衙的な遺構の整備度
- ⑤ 官衙的な遺物の出土

→生野本町遺跡は、④（遺構の整備度）は不明瞭であるものの、

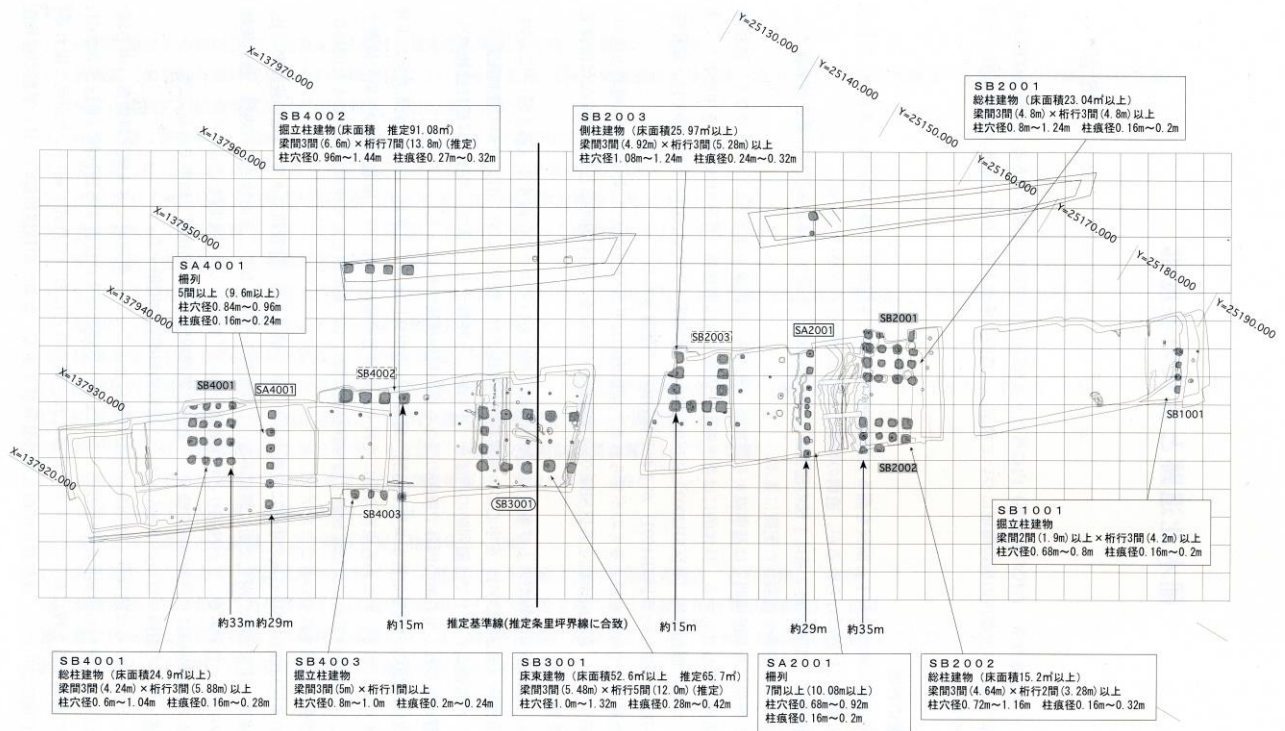
①（古墳時代以来の有力豪族である佐伯氏の本拠地）と②（推定南海道に近接）で稲木北遺跡より優位。このため、本遺跡が多度郡衙であると考え。

（稲木北遺跡は郡衙出先機関）

6. おわりに

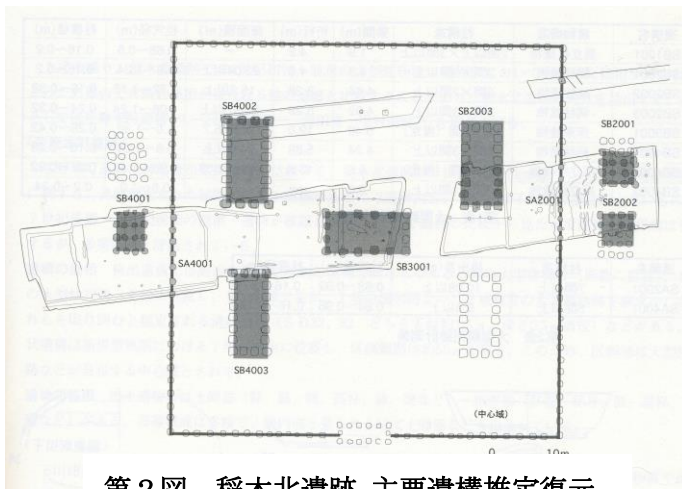
稲木北遺跡は多度郡衙でないと考えている。ただし、本遺跡では一般的な郡衙と比べて遜色ない整備された大型建物群と区画施設をもつ。また、伊予街道という当時の基幹道に面している。そして、この道沿いに展開する同時期の集落群はそれぞれが地域支配に関する様々な機能をもっている。

以上より、稲木北遺跡は官衙として多度郡内の地域支配に深く関った施設であり、周辺集落と連携して郡内の地域支配を遂行していたと考えられる。

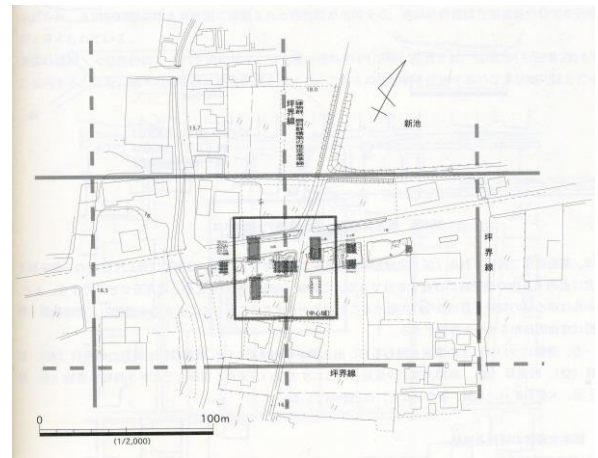


第1図 稲木北遺跡 遺構配置図 (10尺メッシュ)

(トーン掛けは8世紀初頭～前葉の主要な建物跡・榑列跡)



第2図 稲木北遺跡 主要遺構推定復元

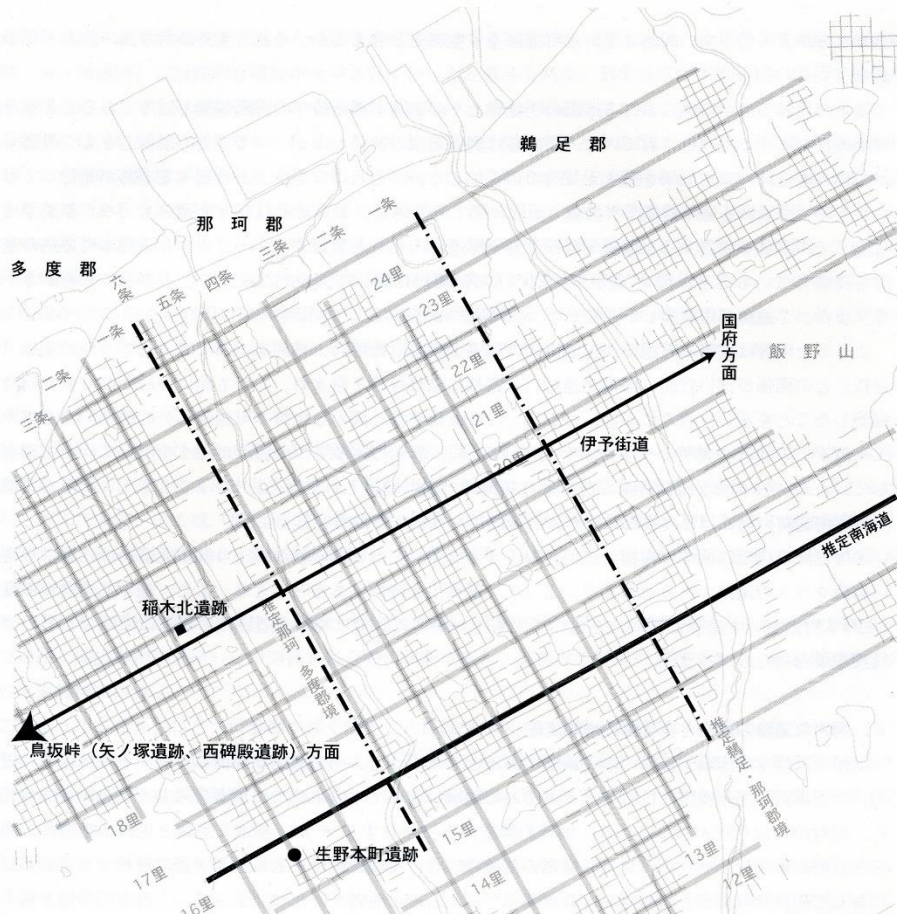


第3図 稲木北遺跡の位置

(条里型地割の東西2坪の中央に所在)



写真1 稲木北遺跡の大型建物跡の発掘調査



第4図 条里型地割における稲木北遺跡と生野本町遺跡の位置



第5図 条里型地割における生野本町遺跡の位置